埼の合気

新理事長挨拶
合気道桶川愛氣会

第37回埼玉県合気道大会
入間幸武館道場

合氣道修練道場自然館 開館30周年記念行事
自然館

第57回全日本合気道演武大会に出場して
蕨合気道会

第34回埼玉県合気道少年・少女錬成大会
志木合気会

道場紹介
狭山市合気道教室　坂戸合気会　白岡合気会

彩のなでしこ
自然館

埼玉県合気道連盟 Vol.40

新理事長挨拶

合気道桶川愛氣会　吉田　忠明

この度、県連の発足三七年、期しくも令和元年に理事長という大役を拝命させて頂くことになりました、合気道桶川愛会の吉田忠明です。

ここ数年で埼玉県合気道連盟の加盟道場も五〇団体を超え拡大しております。これにより事務局業務が増大する中、実のところ理事長職は簡単にお引き受けできるものではないと考えておりました。

しかしながら、今回の就任にあたって、武正会長をはじめ、諸先輩方のご尽力により、スタッフの協力を得ることができ、新たな事務局体制でのスタートを切ることが出来ました。ご協力いただきました連盟加盟道場の皆様には心より感謝申し上げます。

愛和合の精神の元、埼玉県内で活動する合気道道友の皆様とより繋がりを強く、絆を太く、埼玉県合気道連盟という名の技をお互いに受け入れ、理解し作り上げ、合気道という目標に向かい、これからの埼玉県合気道連盟を考えていきたいと思います。

加盟道場の相互理解あってこその埼玉県合気道連盟です。今後とも加盟道場の皆様には連盟の運営に更なるご協力をお願い致します。

1948年4月京都出身 合気道6段
合気道歴37年、柔道歴5年
好きな言葉は「初心不忘」
夫婦、次男、孫3人の6名で合気道を研鑽する合気道一家の長。

報告道場行事

第37回埼玉県合気道大会

入間幸武館道場　加藤　邦彦

令和元年七月七日、埼玉県合気道大会が、合気道本部道場長の植芝充央先生をお招きし、入間市武道館で開催されました。

当日は曇り時々雨というぐずついたお天気にもかかわらず、県内各地から三二団体、約一七〇名の参加者が集い、植芝先生のご指導のもと熱心に稽古に取り組みました。

七月上旬だというのに肌寒く感じる中、受付が始まりましたが、稽古が進む中で参加者の熱気により、どんどん暑く感じていきました。受付時間の頃は、参加者たちは他の道場の顔見知りの人との再会に喜び談笑する姿があちらこちらに見られましたが、道場に集合し開始を待つときには、小雨の音も聞こえるほど静まり返りました。稽古中は受け身の音がたくさん道場内に響きわたっていました。

このように寒さと熱さ（暑さ）、にぎやかさと静寂さを感じられた一日でした。

肩取り第二教、半身半立片手取り四方投げ、後ろ両手取り第三教、片手取り回転投げ、天地投げ等様々な稽古をしましたが、一つ一つの技に取り組む際には、植芝先生がとても丁寧な説明をされていました。一言も聞き漏らせまいと集中して聞く参加者の真剣な顔。稽古中、植芝先生が取りをされていらっしゃると、その周りの参加者は正座し自然とできた円のような空間の中での先生の技に見とれていました。

また「受けの人は横面打ちの際しっかりと踏み込んでください。」「受けの人は当て身をきちんと防いでください。」などと取りの人に対する説明と同じくらい、受けの人が意識すべきことについて指導してくださいました。「お互いに礼」という言葉で表されるように、武道は互いを尊重する精神から成り立ち、稽古も相手がいるおかげで自分自身も成長させていただけるという気持ちが大事ですが、改めてその大切さを感じさせていただきました。

合氣道修練道場自然館 開館30周年記念行事

自然館　吾妻　正義

自然館は平成元年四月に、私の父が狭山市で初めてとなる合気道の道場として開設を致しましてから、今年で三〇周年という大きな節目の年を迎えることが出来ました。

これも偏に、開館から今日に至るまで、常に適切なご助言とご指導を賜りました磯山博先生をはじめ、全国の多くの道友の皆様方の温かいご支援ご協力の賜と衷心より厚く御礼を申し上げます。

四月七日には三〇周年を記念し、磯山先生、狭山市長をお招きし、狭山市総合体育館柔道場にて演武大会を、狭山東武サロンにて祝賀会を開催致しました。

会の冒頭、磯山先生よりご祝辞を頂戴し、その後先生による迫力のある総合説明演武が行われ、厳しさのなかにもユーモア溢れるお話を交えた説明演武に、約一四〇名の来場者は皆釘付けとなって見学しておりました。

その後、場所を変えての祝賀会では、三〇年を振り返るスライドショーの上映や、父の現役自衛官時代の様々なエピソードの紹介などもあり、道友の皆様と思い出話に花を咲かせながら、最後まで笑いあり、感動あり、涙ありの和やかな雰囲気のなか、盛況のうちに会を終了することが出来ました。

振り返りますと三〇年前、父は航空自衛隊を定年で退官した後、第二の人生を青少年の健全育成に捧げたいとの思いでこの自然館を立ち上げ、一階を道場、二階を学習塾とし、自らが理想としていた文武両道の世界を作り出しました。

ここで改めて「自然館」という名の由来を考えたとき、開館式での父の言葉が思い出されます。「合気道を鍛錬する道場の名前としては『自然館』というのが一番相応しい。特にあれこれ考えることなくすんなりつけた次第である」と述べ、自然館を「自然で素直な飾り気のない心の交流の場としたい」とも語っておりました。

私がそんな父の理想に応えられているのかというと、まだまだ努力不足であることを痛感しております。日々の稽古と指導を通じて感じることは、技を行う際の自然な動きと同様に、人と接する際の飾らない自然な表情や立ち居振る舞い等ができるようになるには、やはりそれなりの努力と継続が求められるものだということです。これも父から与えられた課題と思い、今後も、動機や目的も異なる皆様が自然に集う道場となるよう、そして自然館での稽古が皆様の様々な思いや期待に応えられるよう、私自身一層の努力と研究を重ねて参りたいと存じます。

どうか皆様には、今後とも変わらぬご指導ご声援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

第57回全日本合気道演武大会に出場して

蕨合気道会　大久保　正敏

今回第五七回全日本合気道演武大会において埼玉県連の推薦を頂き指導者演武に出場させて頂きました。五年ぶりの演武大会であると同時に単独での演武は初めてでもありましたので、かなり緊張しました。しかしながら、一分三〇秒という短い時間で自分なりの合気道をどう表現するか、ということを存分に考え吟味しながら技を組み立てるということは、とても貴重な体験であると同時に自らを試される試練の場でもあると感じておりました。終わって振り返ってみれば、何とか自分なりの演武を務めさせて頂くことができたと感じます。大変光栄な機会を与えて頂き、連盟を始め関係各位方々に感謝申し上げます。

演武に当たり、心がけたことは、これまでの合気道で培った稽古の成果を表現することです。

私は青山学院大学体育会合気道部にて合気道を始めましたが、故市橋紀彦師範、藤巻宏師範に合気道の基礎を教えて頂きました。学生時代の稽古で最も大きかったことは、やはり基本的な体の使い方を習得できたことだと感じています。具体的には自身の中心軸を意識し、力に頼らない技を心がけるというものです。それはその後の稽古に於いても対応できる素地に繋がったのではないかと感じています。

大学卒業後、現在所属しております蕨合気道会に於いては、故西尾昭二師範による剣杖の理合いを加味した合気道の形に刺激を受けました。特徴として徒手の技においても、剣・杖や当てを意識した技の組み立て方が挙げられます。稽古を通じて技を練り上げ、更なる合気道の深みを認識しつつ、自身の動きの向上に取り組めたと感じています。

今回の演武において、これまで教えて頂きました様々な先生方の薫陶を胸に、現在の私の表現できる最大限の技の一部を披露できたのではないかと感じています。

今後も現状に満足することなく、日々の稽古を通じてより成長していくと同時に、自分の培った技の理合いや考えを広めていけたら良いと思っております。今回の演武大会は大変ありがとうございました。

第34回埼玉県少年・少女錬成大会

志木合気会　佐々木　淳一

平成三一年四月二一日、気温二三度で晴天の中、一五団体一四六人の県連加盟道場少年・少女が集い、平成最後の埼玉県少年・少女錬成大会が志木市体育館柔道場で開催されました。

準備体操に続き、小生が普段の稽古から重点的に指導している受け身、さらに送り足と継ぎ足を使った技の稽古を行いました。受け身は、後頭部を守る後ろ受け身を主体に身構えた状態から後ろ足をたたんで受けることから始まり、次に前足を一歩引いて足をたたむ受け身、最後に号令に合わせて前方と後方の回転受け身を集団で行いました。号令は、一が前方回転、二が後方回転とし、見本では一、二、一、二と規則正しく交互に行ってみせました。子供たちには、その号令に変化をつけることで集中力を維持させることに努めました。続いて行った送り足と継ぎ足の単独動作は、ほとんどの子供たちが難なくこなしましたが、技（隅落し）に転用すると活用できない子供が見受けられました。志木の稽古でも単独動作がどんな技に活用できるのかを意識して指導していますが、なかなか上手く出来ず、継続して型から技への活用指導が必要だと実感しました。錬成稽古の最後には、各道場の先生にご協力いただき、大きな大人を小さな子供たちが送り足や継ぎ足を使って投げる稽古で、基本動作と技を結び付けるものとしました。

演武会では、毎年のことですが、良く稽古された元気な演武が披露され、会場に訪れた父兄のカメラのシャッター音が止むことがありませんでした。演武会後には、副会長である川路先生の演武が行われ、間近でみる迫力ある演武に子供たちが見入っていました。

指導は適切であったか？運営はスムーズであったか？など考えるとキリがありませんが、先ずは怪我人が出ずに無事に練成会を終えることができ安堵しております。

参加いただいた各道場の子供たちはもちろん、指導者ならびに引率のご父兄の皆様に心より感謝申し上げます。

道場紹介

●狭山市合気道教室　小林　大蔵

狭山市合気道教室は、平成二年九月に合氣道修練道場自然館の初代・吾妻久朝館長によって開設された道場です。

吾妻館長は航空自衛隊を退官後、第二の人生を青少年の育成に捧げたいとの思いから、平成元年、自然館を立ち上げられ、一階を道場、二階を学習塾として文武両道の世界を作り出されました。

更に、この素晴らしい合気道を一人でも多くの方々に広めたいとの思いから、翌年、この合気道教室を開設されました。

その後、とても悲しいことですが初代館長は志半ばにして急逝されました。この時、ご家族ご親族は勿論ですが、関係するとても大勢の方々皆、非常に辛い時期がありました。

ですが、その志を受け継いだ吾妻正義　現館長の並々ならぬご努力、

ご苦労により、自然館は現在ますます素晴らしい道場となり、発展の一途を辿っております。

狭山市合気道教室もその志のもと、週一回ですが狭山市智光山公園内にある狭山市総合体育館・二階柔道場において毎週土曜日一五時一五分から一時間稽古を行っています。現在、狭山市合気道教室は自然館の有段者が指導を任されており、昨年四月より私が代表となり、他の有段者の方々と共に稽古を務めさせて頂いています。

吾妻館長も時間の許す限り稽古に来て頂き、子供たちを指導されています。

現在は少年部約三〇名、一般約一〇名の会員が在籍し、親子で稽古をしている方もいます。

稽古は主に少年部中心となりますが、特に礼儀作法を意識して行っています。挨拶をする、爪は伸ばさない、正座は姿勢正しく、手は膝の上、などなど。

入会したばかりの子供は本当に千差万別で個人差があります。元気いっぱいの子、内気で恥ずかしがりの子、人の話を聞かない子など本当に様々です。

そういう子供たちも皆それぞれに素直さがあり、稽古に来るたびに自分で帯が結べるようになり、礼や挨拶がきちんとできるようになり、姿勢や行動にも変化がみられるようになってきます。

更に上級者となり、入会したばかりの子供たちと稽古する際に相手に合わせた動き（力の加減）ができるようになってくると、労りの気持ちなど心の成長を感じることができ、とても嬉しく思います。

稽古前、学校は違っても道場内をワーッと走り回ってすぐに仲良くなれるのが子供の良さです。礼儀作法を守りつつ、この楽しい愉快な気持ちで稽古ができるよう自分も精進していきたいです。

今年、自然館は三〇周年を迎え、この狭山市総合体育館において盛大な演武会が開催されました。もちろん狭山市合気道教室も賛助演武を行いました。

これからも狭山市合気道教室は自然館の指導心得やモットーに則り、楽しく愉快に稽古できるよう努めていきます。

代表になってまだ二年目、まだまだ理想には遠いですが「千里の道も一歩から」よろしくお願いします！

見学・体験はいつでも自由にできます。

皆さん、ぜひ狭山市合気道教室にお越し下さい。

●坂戸合気会　三浦　義博

坂戸合気会は昭和五一年（一九七六）に岩切光作師範によって設立され、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、吉見町を中心に、草加市、練馬区、所沢市などから通う会員も含め、坂戸市民総合運動公園柔道場において毎日曜日に二時間の稽古を行なっています。前半の一時間は基本技を中心に、後半の一時間で木刀・杖による「体捌き」や「結び」の確認を行い、「不断の稽古」を根本姿勢として稽古を積み重ねることにより「争わない心、和合の精神を涵養し、不動の心を養成する」ことを目指しています。

坂戸合気会の近況

坂戸合気会は平成二七年（二〇一五）度に埼玉県合気道連盟に加盟承認をいただき、県連加盟団体一員として当地区の合気道普及活動に取り組んでいます。

しかし埼玉県合気道連盟加盟時に二〇名であった会員は、平成三〇年には一五名にまで減少し、高齢化が目立つ状態となってきました。少子高齢化と言えばそれまでですが、若年層不在で青・壮年層会員が薄い坂戸合気会の現状は、合気道の普及の

みならず長期的に見れば道場の存続問題にも不安を残します。

このような会員の減少に歯止めをかけ、坂戸合気会の道場としての体力回復を目指して普及活動に取り組むこととしました。

坂戸合気会の普及活動

普及活動としてポスターを作成し、東武東上線坂戸駅南口の無料掲示板や坂戸市民総合運動公園に掲示し、また坂戸市広報への案内を行うなど坂戸合気会の周知を図っています。

坂戸駅南口の掲示ポスターには反響があり、「駅のポスターを見た」という入会問い合わせとともに、有段者、経験者、初心者六名の新規入会者を迎えることができました。令和元年現在の会員数は埼玉県合気道連盟加盟時の二〇名に戻るとともに、新規会員の入会は普段の稽古に刺激と緊張感をもたらしています。

スリランカ合気会との交流

坂戸合気会には、合気会本部道場の稽古に来日するスリランカ合気会会員が毎年訪れます。坂戸合気会で指導にあたる米ノ井正スリランカ合気会創設者・顧問の下で合同稽古を行い、坂戸合気会会員にとって貴重な体験となっています。本年も九月に複数名が坂戸合気会を訪れ、合同稽古が予定されています。

坂戸合気会は、今後とも埼玉県合気道連盟の一員として、道場としての継続的な体力回復を図りながら、坂戸地区の合気道普及に取り組んで行きたいと考えます。

●白岡合気会　境澤　吉正

「白岡を合気道の街に」、平成十八年四月、この言葉と一緒に、白岡合気会は歩みをはじめました。新白岡駅から徒歩十分、閑静な住宅街を抜けると、緑に囲まれた体育館が姿を現します。その体育館と併設されている「ミーティングルーム」が私たちの稽古場です。五十畳の畳を敷き、毎週土日の早朝より稽古を行っています。

平成十九年四月、創設から一年という時期に創設者である山田恒夫師範が急逝され、白岡合気会存続の危機が訪れます。その際、埼玉県合気道連盟からのアドバイス、そして、近隣の道場の皆様に支えられ危機を乗り越えることができました。平成二十年六月、大宮道場の市塚勇師範からご指導をいただくことになります。この頃から、大宮道場、久喜合気道同好会、桜道場を始め多くの道友の皆様との交流が持てるようになり、白岡合気会の運営も安定した状態へと好転していきます。お二人の師範からは、合気道の素晴らしさ、奥深さ、そして楽しさを教えていただき、その教えは今日の白岡合気会の礎になっています。

平成二十七年度からは、久喜合気道同好会の櫻井建夫師範をお迎えし、活動の場を広げていきます。「ミーティングルーム」から体育館へとより広い場所での稽古ができるようになり、杖や木刀を使っての稽古も取り入れることが可能となりました。会員は三十名を超え、大人と子供が一緒になって稽古を行うという発足以来のスタイルを続けながら、「明るく、楽しく、そして真剣に」をモットーに稽古に励んでいます。

今日まで、白岡合気会を如何に存続させていくかを考えながら活動を続けてきました。今後は、今まで重ねてきた経験を活かし、より良く会の継続を図り、合気道の普及に努めてまいりたいと思っています。

彩のなでしこ

NADESHIKO

私にとっての合気道

合氣道修練道場自然館　岩崎真奈

私は、小学校１年生から両親に勧められて従姉妹と弟との４人で合気道を始めました。

始めたばかりの頃は、教えて頂いた技を習得することができず、多くの人に指導して頂き、少しずつ技を覚えられるようになりました。特に三教は、困難を極め、泣きながら練習した覚えがあります。その後中学生になると部活や勉強が忙しくなり、一度合気道から離れました。７年が経ち短大を卒業する前にもう一度鍛錬に励む為、再度入門致しました。

再開した頃は、初歩的な受け身や体の変更も忘れており、一から稽古をし直しました。

皆様方のご指導のおかげで体の使い方が徐々にわかるようになり、自信に繋がりました。

しかし、去年の合宿で受け身を取る時に、首を捻挫してしまい審査もまともにできず凄く辛くて苦しい思いをしました。自分が怪我をしたことで相手にも怪我をさせてはいけない。「無理せず、怪我せず、怪我させず」を心掛けながら稽古をすることに気付かされました。そして今年の防衛省夏季合宿訓練では、昇段審査を受けさせて頂きました。昇段に向けて一番大変だったことは、武器取りの受け技、交わし技ができなかったことです。頭の中が真っ白になってしまい、上手くできなくてくじけそうになりましたが、諦めず稽古に参加し、多くの方にご指導して頂いたおかげでできなかった武器取りも交わすことができるようになりました。審査当日は、緊張もあり、怪我をしないか心配でしたが教えて頂いたことを活かすことができたと思います。これからも諦めずに楽しく稽古を続け、日々成長できるように頑張っていきたいと思います。

※このコーナーでは県内の女性合気道家をご紹介していきます。
自薦・他薦を問いませんので各道場よりのご応募をお待ちしております。

重要なお知らせ

2018 年の総会で連盟規約の改定があり、昨年より加盟道場は埼玉県合気道連盟主催の会議（定例理事会・定期総会）および行事（少年少女錬成大会・埼玉県合気道大会）それぞれに１回以上の参加が義務付けられました。
各道場の先生方におかれましては、道場の年間スケジュールに県連行事を組み込み必ずご参加ください。

埼玉県合気道連盟行事予定

●定例理事会
日　時：2020 年４月 12 日（日）
　　午後３時 30 分～午後５時 00 分
場　所：さいたま市民会館うらわ（予定）

●定期総会
日　時：2020 年６月７日（日）
　　午後３時 30 分～午後５時 00 分
場　所：さいたま市民会館うらわ（予定）

●少年少女錬成大会
日　時：2020 年４月 19 日（日）
　　午後１時 00 分～午後４時 00 分
場　所：入間市武道館

●埼玉県合気道大会
日　時：2020 年７月５日（日）
　　午後２時 00 分～午後４時 00 分
場　所：所沢市民武道館

訃報

埼玉県合気道連盟の元相談役の渡邉信之師範が、かねてより病気療養中のところ、令和元年８月 20 日（火）（現地時間）に逝去されました。（享年 89 歳）ここに謹んでご冥福をお祈りし、お知らせいたします。

彩の合気 No.40　令和元年 10 月１日発行（年２回発行）
発行 / 埼玉県合気道連盟　編集人 / 埼玉県合気道連盟事務局　吾妻正義　〒 350-1319　埼玉県狭山市広瀬 2-38-26　電話 04-2954-7677